

ベストクラス選定理由書

作成者： 入谷由喜子・上野稔子・大野沙絵子・新井友博・有兼章登・森定華・山中一英

科目名称 コーディネート概論（昼間クラス） （担当教員名：石橋由紀子）	
課 程 ： 大学院（修士）	開講時期 ： 前期
授業形態 ： 講義	授業規模 ： 31人以上
インタビュー対象教員名 石橋由紀子 （実施日時：9月2日； 実施場所：Teams上）	
インタビュー対象受講者名 姫路友香・生嶋千絵 （実施日時：9月2日； 実施場所：Zoom上）	
選定理由 小グループでの交流を含む授業全体に常に受容的な雰囲気があり、至るところに教員の細やかな仕掛けと配慮があったこと、それを受講者側も感じ取っていたことがわかったため。 《教員インタビューから》 受講生同士が対話する場面が多く設定されており、じっくりと考えることを大切にされている授業であった。受け止め方や考え方、理解や思想の違いがあるのは当たり前ということを前提に、疑問や質問をもとに対話ができるよう、石橋先生はご配慮されていた。 授業の内容については、時代に合わせて内容をブラッシュアップされているとのことで、古くなった内容は潔く断捨離し、受講生にとって学びになる魅力的なゲストティーチャーを招き、成功例・失敗例どちらも伝えようと工夫されていた。 また、授業の中でのスライドには、石橋先生オリジナルのイラストや、つぶやきや問いかけなどが盛り込まれており、それによって受講生の皆さんはほっとしたり改めて考えたりすることが多かったとのことで、石橋先生は「授業は提供するものではなく、受講生自身が考えられるようにすることが大事」、「小さな工夫を積みかさねていくことがよい授業につながる」とおっしゃっていた。 《受講者インタビューから》 「指とま方式」のよかった点として、「選択肢から選ぶ」という行為を通じて自分の中にある興味にあらためて向き合うことができたことや、他の受講生の興味・関心やその度合いについても知る機会が得られたことなどが挙げた。 ゲストティーチャーの回では、自分が居住・勤務する自治体での事例を身近に感じたり、逆に異なる自治体の事例から取り組みの違いについて知ったりし、自治体単位の動きを俯瞰して見ることで普段の実践とは違った視点を得られたこと、などが挙げた。 授業を共に作り上げる実感が得られたこととして、何を話しても受け入れられる雰囲気の中でかしまらずに話ができたと、教員の準備したスライドの「つぶやき」から、発信する教員の心の動きをも身近に感じることもできたことなどが挙げた。 以上のことから、本授業を令和6年度「ベストクラス」として推薦する。	